

2 告知を受けるときは

◆ 告知を聞く

告知は、医療者が、患者や家族と情報を共有し、ともに立ち向かうための大事な入り口と言えます。激しい動揺も時間とともに落ち着いてきますが、がん相談で不安や悩みを聞いてもらうことで収まる場合もあります。何より大事なのは、自分の病状を正確に把握することです。

◆ 担当医と上手にコミュニケーションを取る

担当医は、患者のデータを管理して、総合的に判断できる要の存在。上手にコミュニケーションを取ることが大切です。病状や治療計画を聞く際は、家族に同席してもらい、あらかじめ聞きたいことをノートに書き出しておくなど、自分の状況を的確に理解し、記録するための準備をして臨みます。わからないことは遠慮せず、医師に質問しましょう。「医師の言葉に傷ついた」「相性が合わない」など、担当医とうまくコミュニケーションを取るのが難しい場合もありますが、気になることがあっても、あまり引きずらないことが賢明です。病院の相談センターや電話相談などを利用してみるのも一つの方法です。

◆ インフォームド・コンセント

かつて医師と患者との関係は、患者側からは質問もできないような雰囲気の時代理が長く続きました。しかし今は違います。診断や治療を進めるには、医師が患者に対して十分な説明をし、それを患者が理解した上で、治療方針に同意を与えるという「インフォームド・コンセント」が不可欠になっています。怖がらずに、わからないことがあったら質問してみましょう。